



HuRP

ハーブ通信

2011年

**2・3月
合併号**

(第57号)

<http://www.hurp.info>

東日本大震災の被災者へのお見舞いと今後の活動について

2011年3月22日

NPO法人 HuRP 事務局

2011年3月11日午後2時46分ごろに、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。かつてない規模の地震による被害の大きさもさることながら、その後に東北地方の沿岸を中心に襲った大津波により、多くの市町村で壊滅的な被害が発生したことは、すでに周知のことです。

関東地方もこの地震により、大きな揺れが起こり交通機関の停止など経験したことのないライフラインのマヒ状況が起こり、市民生活はその後も未だ経験したことのない混乱にも見舞われました。

この地震の大被害以外に、最も重大な事故の一つに地震と津波による東京電力福島第一原子力発電所の事故があります。この事故により周辺地域の住民の方々は震災と放射能漏れによる人災が重なり、想像を絶する困難な環境におかれています。早期の解決を望みます。

今回の大震災とその後の二次災害の被害に遭われた全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、震災によりお亡くなりになった方々に心よりお悔やみ申し上げます。

いまもなお、避難所などで困難な生活をなされている多くの方々、どうかご健康に留意され、お過ごしいただきたく存じます。

未だかつて経験したことのないこうした事態に対し、私たち自身も状況をどのように受け止めて、どう判断し行動すべきなのでしょう。残念ながら明確な答えはありません。しかしながら、座して事態の推移を見るということだけでは許されないと思います。

私たちNPO法人HuRPは、人権の重さや平和の尊さを実際の社会の中で実現したいと願い、設立されました。

このような事態に直面し、私たちも微力ではありますが、何をすべきかを考え、行動しなければならないと思っています。

それはとりもなおさず、人の命をどのように守るかということです。生命が守られることが人権を守ることの出発点だからです。そのことを中心に据えた早急な対応が求められていると感じております。

既に多くの組織、人々がそのことを一致点として、生命の救済活動に必要なあらゆる手だてがとられ始めています。

NPO法人 **HuRP** もそうした組織、人々の取り組みに呼応して、生命の救済活動のために、まずすぐにできることとして、わずかではありますが、日本赤十字社を通じて義援金を送りました。

今後も、事務局を中心に **HuRP** の活動のために行ってきた諸活動から得る活動資金を元に、支援活動を行っていく所存です。

さらに事態の推移を注視しながら、可能であれば、被災地の方々へ何らかの方法での支援活動を行いたいと考えております。

現実に発生したこの事態に直面し、改めて一人ひとりの生命の安全をなによりも第一に考える社会を創り上げていくことが、最優先されるべきであることを強く認識しております。**HuRP** は改めて、このことを基礎に据えた組織として活動を続ける決意です。

※ 義援金のお願い

NPO法人 **HuRP** は、活動資金の中から義援金を適時送る予定です。会員の皆さんにおいても、義援金をお考えの方は、**HuRP** の下記の口座宛にお送りください。なお、2011年度の会費（賛助会員は年間3,000円、サポーターは年間1,000円）の中から一定額を義援金とさせていただくことにしますので、会費の納入はどうぞよろしく願いいたします。

- ・ 郵便局口座 口座番号 00180-8-280207
口座名称「特定非営利活動法人人権平和国際情報センター」

- ・ 銀行口座 みずほ銀行九段支店
(普通) 1013386
「NPO法人人権・平和国際情報センター」

歴史のうねりにのせ人間を描く

演劇『焼肉ドラゴン』

2011年2月12日

この作品は、2008年に日本と韓国で上演され、両国で好評を博し、今回再演されました。



1970年代の高度成長期の時代、焼肉屋「焼肉ドラゴン」では、常連客と店を切り盛りする家族でいつもにぎわっています。そんなたくましく生きていく家族の元に、土地の明け渡しを求める人物がやってきて……

「矛盾の塊や、在日は！」「わしらには、ここしかない」在日の人のおかれた厳しい差別や、在日の人がかかえる深い心の傷を、物語の中で表現しています。それでも「桜の綺麗なこんな日は、明日が信じられる」と、明るくたくましく生きていく家族に、心を揺り動かされました。劇が終了した時、大きな拍手に舞台が包まれました。

この作品は日本語と韓国語が交じり（ハングルで「ビビン」）あい、韓国語は左右の字幕で映し



出されます。舞台には奥行きがあったり（写真は舞台の模型です）、幕間に出演者がパフォーマンスをしたりなど、観る人を楽しませる仕掛けがたくさん見られました。

在日の方の歴史を知らない人には作品を楽しみながら学ぶことができ、知っている人にはそのことをかみしめながらも楽しめ、そして現在も続く在日の方の問題をも考えさせるという、奥行きのある作品でありました。（T本）

参考：在日の人たちの歴史（2010年9月号「朝鮮半島と日本の歴史を東京で学ぶ」より転載）

日本は1910年に韓国（大韓帝国）を併合しました。同年土地調査事業が始まり、持ち主が不明な土地が取り上げられて農業が続けられなくなり、日本に渡ってくる人が増えましたが、厳しい生活と差別がありました。1937年に日中戦争が勃発すると日本は朝鮮から強制的に労働者を連行し、炭坑や軍事工場で働かせました。そして1945年、日本が敗戦し朝鮮半島が解放されると、多くの方は帰国しましたが、政情の不安や生活の不安などから日本に残る人もいました。在日コリ

アンの人々に対する差別ははげしく、この差別を撤廃するための運動がはじまりました。そして現

在でも、在日コリアンを取りまく問題は続いています。

医療の現場を観る

演劇『青ひげ先生の聴診器』

2011年3月5日



花里病院の榊原院長は、髭の剃り跡が青いことから「青ひげ先生」としてスタッフや患者から慕われています。

病院は経営の危機に見舞われましたが、住民からの基金「友の会」によって立ち直ります。また、お金を出した住民の人たちによる「病院探検隊」が抜き打ちで訪問して、病院に問題点があれば指摘し改善するという、地域が一体となった病院を経営しています。

そこに後輩の風間医師がやってきます。優秀な

外科医でしたが、とある手術を医療ミスとして訴えられ、悩み、先輩である青ひげ先生に会いにやってきます。

この作品では、現在の医療が抱える社会的な問題を投げかけます。長期の入院は病院にとってマイナスだからいやがられる、削減される医療費、無医村問題、医師不足、最善の方法をとったのにもかかわらず「たらい回し」とされてしまう、……

そのような状況の中で、この病院では患者のために何ができるかを第一にして、できるだけ患者の希望に応えようとしています。ある患者がパチンコに行きたいという要望にも応えます。そして、「生きていればまたパチンコができる」という患者の希望をもたらしました。「生きる意欲は化学（療法）を超える」を実践しようとしています。

また、「がんは死を意識させると同時に生きることを意味を考えさせる病気だ」という言葉は、病気とは何なのかということを考えさせられました。

「病を診て人を見ない医者にはなりたくない」医療業界の現実とたたかう病院の姿は、医療だけではなく、働くあらゆる人々に対するメッセージであると思いました。(T本)

2月号の発送が遅れ、ようやく完成し、発送する矢先の地震でした。今回、3月号と合わせての発行いたしました。はじめにお書きしましたとおり、わたしたちにできることをやりたいと思います。

(T本)



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーブ)

Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231
e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>